

## 新刊紹介

金成垣・大泉啓一郎・松江暁子 編著

『アジアにおける高齢者の生活保障—持続可能な福祉社会を求めて—』

(明石書店, 2017年)

大津 唯\*

韓国, シンガポール, タイなどのアジア諸国では, 日本やほかの先進国を上回るスピードで高齢化が進行している。しかし, 高度経済成長期に社会保障制度を拡充できた先進国と異なり, 現在のアジア諸国では厳しい財政事情のもと, 高齢者の生活を支えるための社会保障制度の大幅な拡張が困難な状況にある。本書は, こうした事態に直面するアジア諸国において, 高齢者の生活を保障するためにいかなる対策が展開されているのか, またそれが日本や西欧諸国などの高齢化の先発国に与える示唆は何かを, 論じたものである。

本書の構成は次の通りである。第Ⅰ部「韓国における高齢化と高齢者の生活保障」では, アジア諸国・地域における高齢化とその対策としての社会保障制度の展開を概観しながら, アジア諸国のなかでも特に韓国に注目する必要があることを指摘したうえで(第1章), 韓国における高齢者の生活保障の現状を整理し, その特質を「保障性」より「持続性」を重視して形作られたものであると指摘している(第2章)。

第Ⅱ部「韓国的特質の諸相」では, 韓国の具体的な対策に踏み込み, 高齢者雇用政策の現状と課題の検討を行ったうえで(第3章), ソウル市内で最も高齢化率が高い蘆原(ノウォン)区を事例として, 高齢者の生活支援に関するさまざまな事業の紹介(第4章), 蘆原老人福祉館と月溪(ウォルゲ)福祉館で実施している低所得高齢者向け福祉サービスの現状と課題の検討(第5章), 月溪福祉館で実施されている「美しい隣人」事業の展開と

課題の考察(第6章)がなされている。

第Ⅲ部「アジア諸国の事例」では, シンガポール(第7章), タイ(第8章), ベトナム(第9章), 台湾(第10章)が取り上げられている。シンガポールとタイでは地域コミュニティをベースとしたケアに, ベトナムでは家族扶養を柱とした高齢者ケアの現状と課題に, 台湾では家庭などで雇用され高齢者ケアを担う外国人労働者である「外籍看護工」に, それぞれ焦点が当てられている。そして, これら高齢化の後発国と対比する形で, 日本の高齢者の生活保障の現状と課題を検討している(第11章)。終章では, 各国の実態をふまえて, 社会保障制度, 高齢者就労支援, 地域福祉という三つの視点からアジア諸国における高齢者の生活保障の現状と課題をまとめている。

本書を通して主張されているのは, 厳しい経済・財政事情のもとで急速な高齢化を迎えるアジア諸国において, 高齢者の生活ニーズを社会保障制度だけで支えるのは困難であり, 高齢者の就労支援や地域福祉を加えた複合的な取り組みが必要である, という点である。本書で取り上げられた各国の対応は, 「地域包括ケア」などをキーワードとして高齢者の生活保障の在り方の転換を図っている日本にも大きな示唆をもたらすものと思われる。研究者のみならず, 行政, あるいは地域において高齢者支援に関わっている方にも手に取っていただきたい良書である。

(おおつ・ゆい)